



海軍公報 第四七八七號

昭和十九年九月一日(金)
海軍大臣官房

○令 達

達第二八三號
昭和十八年度及昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅潛特務艇二十隻ニ左ノ通命名ス

昭和十九年八月二十八日

海軍大臣

- 株式会社強力造船所ニ於テ建造
 - 第二百二十六號驅潛特務艇
 - 第二百四十五號驅潛特務艇
- 西井造船所ニ於テ建造
 - 第二百二十七號驅潛特務艇
 - 第二百四十四號驅潛特務艇
- 林兼重工業株式會社ニ於テ建造
 - 第二百二十八號驅潛特務艇
 - 第二百三十五號驅潛特務艇
- 株式會社三保造船所ニ於テ建造
 - 第二百二十九號驅潛特務艇
 - 第二百四十號驅潛特務艇
- 株式會社佐賀造船鐵工所ニ於テ建造
 - 第二百三十號驅潛特務艇

- 株式会社山西造船鐵工所ニ於テ建造
 - 第二百三十一號驅潛特務艇
- 市川造船所ニ於テ建造
 - 第二百三十二號驅潛特務艇
- 株式會社四國船渠工業所ニ於テ建造
 - 第二百三十三號驅潛特務艇
- 德島合同造船株式會社ニ於テ建造
 - 第二百三十四號驅潛特務艇
- 村上造船所ニ於テ建造
 - 第二百三十六號驅潛特務艇
- 株式會社船矢造船鐵工所ニ於テ建造
 - 第二百三十七號驅潛特務艇
- 株式會社米子造船所ニ於テ建造
 - 第二百三十八號驅潛特務艇
- 株式會社自念造船鐵工所ニ於テ建造
 - 第二百三十九號驅潛特務艇
- 株式會社小柳造船所ニ於テ建造
 - 第二百四十一號驅潛特務艇
- 福岡造船鐵工株式會社ニ於テ建造

秘海軍公報 第四七八七號 昭和十九年九月一日

一一八三

第二百四十三號驅潛特務艇

官房第一〇四二號

舊第二百五十一號驅潛特務艇ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年八月二十八日

海軍大臣

公稱番號

船種

所屬

定數別

記事

第六六號

曳
(驅潛艇型)
(百七十五艘)

海軍對潛學校

定數

舊第二百五十一號驅潛特務艇

○通牒

官房備機密第三一八號ノ九

昭和十九年八月三十一日

各廳長殿

海軍省副官

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十九年官房備機密第三一八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ二)中ニ

第十一 水雷戰隊司令部 少四六四

第三百七設營隊 少四六五
第三百九設營隊 少四六六

同 (其ノ二)中ニ

第三百十五設營隊 少六八
第三百八設營隊 少六九
第九輸送隊 少七〇

同 (其ノ三)中ニ

第五二五船舶防空隊 少壹參九
第三百一十六設營隊 少壹四〇
第三百二十七設營隊 少壹四壹
第三百二十八設營隊 少壹四貳

同 (其ノ四)中ニ

南西方面航空廠第三支廠 少壹七五
第七輸送隊 少壹七六

ヲ加フ

別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽表中第十六海軍軍用郵便所ノ項ヲ左ノ如ク改メ第三十海軍軍用郵便所ノ項「第一派出所」

「ロン」第二派出所マノクワリヲ削リ第三十八海軍軍用郵便所ノ項「第一派出所」タウンガツプヲ加フ

第十六海軍軍用郵便所	第三十二特別根據地隊	吳鎮守府	第三南遣艦隊					監督官兼務 一人 奏任
				所長 專任	所員 專任			一人 奏任
								十四人 判任
								十三人 雇員

官房機密第一三四號ノ一三

昭和十九年九月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セララルモノヲ除キ別冊暗號圖書

現狀表第三五號ニ依リ處理相成度

(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

海人三機密第二號ノ五八

昭和十九年八月三十一日

海軍省人事局長

各所轄長殿

兵進級比率ニ關スル件中改正ノ件通牒

海人三機密第二號ノ四六通牒首題ノ件中左記ノ通改メラレ候

記

第一、一、(ロ)(ニ)ノ項中「艦隊又ハ」ヲ「艦隊若ハ」ニ、「陸上部隊」ヲ「艦船部隊」ニ改ム

(註)

艦隊所屬ノ艦船ニ勤務中ノ者ニ對スル兵進級比率ハ各科ヲ

通シ候補者ノ一〇〇%以内ナリ

艦隊所屬ノ陸上部隊等(職務中又ハ乙ノ加算ヲ附セラレザ

ルモノニ限ル)ニ勤務中ノ者ニ對スル兵進級比率ハ各科ヲ

通シ候補者ノ五〇%以内ナリ

(參照) 昭和十九年八月九日海軍公報

軍需機密第五一八號

昭和十九年八月三十日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

番號航空隊ノ艦營需品定額表廢止ニ伴フ取扱

整理ニ關スル件申進

祕海軍公報 第四七八七號 昭和十九年九月一日

一一八五

1230

今般航空隊ノ編制改組ニ伴ヒ番號航空隊(練習航空隊ヲ除ク)ノ艦營需品定額表ハ近ク廢止セララルル豫定ニシテ之方實施後ニ於ケル番號航空隊ニ要スル艦營需品ハ進駐航空基地(航空隊)ノ物品ヲ使用セシメラルル主旨ニ有之候條現在同隊ニ併用又ハ受込中ノ物品ハ現駐航空基地(航空隊)ニ其ノ儘引渡ノ上兩者ハ夫々兵備品會計規程第二十三條並ニ艦營需品經理規程第二十三條ノ規定ニ依リ處理相成度
道テ之方爲航空基地(航空隊)ニ於テ定額表定數ニ増減ヲ生ジタル場合ハ艦營需品經理規程第十三條ノ規定ニ基キ定數變更請求ノコトニ取計相成度

經給第一六〇號

昭和十九年八月二十二日

海軍省 經理局長

關係各廳長 殿

特設警備隊ノ給與ニ關スル件通牒

本年內令員第一二八八號ニ依リ各衛科學校ノ職員、學生及練習生ノ人員ヲ以テ夫々其ノ特別定員ト定メラレタル特設警備隊ノ給與ハ左記ニ依ル義ト了知相成度

記

一 戰時増俸

准士官以上、候補生及見習尉官並ニ文官同待遇者ニ在リテハ俸給ノ十分ノ三(尉官、候補生、見習尉官及准士官ニシテ増

俸月額三十圓ニ滿タザルモノニハ月額三十圓、判任文官同待遇者ニシテ月額二十五圓ニ滿タザルモノニハ月額二十五圓)下士官兵及員傭人ニ在リテハ俸給又ハ給料ノ十分ノ四額トス

二 食料及糧食

昭和十八年官房需第一八八號ニ依リ糧食及併給食料ヲ支給ス
三 前二號以外ノ給與(旅費ヲ含ム)
當該衛科學校ニ付定メラレタル給與ニ依ル

○ 雜 款

○ 開隊

滋賀海軍航空隊ハ八月十五日滋賀縣滋賀郡下坂本村ニ開隊セリ
(京阪電鐵滋賀里下車徒歩約十分)

○ 事務開始

第三十設營隊ハ八月二十七日海軍施設本部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

秘

海軍公報 第四七八八號

昭和十九年九月二日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房軍機密第一一四七號

陸海軍電波技術委員會規約中左ノ通改正ス

昭和十九年八月三十日

海軍大臣
陸軍大臣

別表中委員ノ部「海軍航空本部第四部第四課長」ヲ「海軍航空本部第四部第一課長」ニ、幹事ノ部「海軍技術研究所部長」又ハ「海軍航空技術廠部長」ヲ「海軍技術研究所部長」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ六四ノ二頁参照)

官房軍機密第一一四八號

陸海軍(除航空)技術委員會規約中左ノ通改正ス

昭和十九年八月三十日

海軍大臣
陸軍大臣

別表中第一分科ノ部海軍艦政本部部長「三」ヲ「四」ニ、第九分科ノ部海軍艦政本部部長「四」ヲ「五」ニ、横須賀海軍工廠機關實驗部部長「一」ヲ「二」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ五四頁参照)

官房軍機密第一一四九號

昭和十九年官房軍機密第七七四號中「藤澤分校及」ヲ削リ「當該分校」ヲ「同分校」ニ改ム

昭和十九年九月一日

海軍大臣

(参照) 昭和十九年官房軍機密第七七四號ハ横須賀海軍通信學校長ハ同校藤澤分校及豊川分校ニ於ケル首席兵科將校ヲシテ所轄長ニ準ジ當該分校ニ配セラレタル者等ノ身上ヲ取扱ハシムル件ナリ(六月五日海軍公報(部内限)本欄参照)

官房人機密第一六八六號

本年官房人機密第二七九號第二號(口表)中入團期日九月二十五日ノ部「電測術」ノ上「横須賀海軍通信學校」ヲ「海軍電測學校」ニ改ム

昭和十九年九月一日

海軍大臣

(昭和十九年二月四日海軍公報(部内限)本欄参照)

○通 牒

秘海軍公報 第四七八八號 昭和十九年九月二日

一一八七

官房空第四〇七號

昭和十九年八月三十一日

海軍省 副官

關係各廳長殿

岡山及京城飛行場使用制限ニ關スル件通知

首題ニ關シ別紙ノ通陸軍航空本部ヨリ通知アリタルニ付了知相成度

(別紙)

航本普第七六四號

昭和十九年八月十五日

陸軍航空本部

海軍航空本部御中

岡山及京城飛行場使用制限ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ノ如ク承知セラレ度

記

一 岡山飛行場ハ地盤軟弱ニシテ中型機以上ノ着陸ハ不可能ナリ

二 京城ニ於テハ一般通過機等ハ第一飛行場(汰矣島)ノ使用ヲ極力避ケ第二飛行場ヲ使用スルニ勉メラレ度

追テ貴關係部隊ニ通報方取計ハレ度申添フ

(註) 岡山飛行場ハ元航空局乘員養成所飛行場ニシテ岡山市福田地先埋立地ニ在リ

官房軍第一二五〇號

昭和十九年九月一日

海軍省 副官

關係廳長殿

横須賀海軍通信學校施設ノ呼稱ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十九年官房軍第六五三號通牒ニ依ル首題ノ件中「左ノ區分」ヲ「左表」ニ改メ「神奈川縣藤澤市及」、「夫々」、「藤澤分校及」及表中藤澤分校ノ項ヲ削ラレ候

(昭和十九年五月二十二日海軍公報(部内限)本欄参照)

航本機密第一〇七七三號

昭和十九年八月二十九日

海軍航空本部長

第一、第二、第十一、第十二、第二十一、第二十二、第三十二、第四十一、第五十一、第六十一、海軍航空廠長殿

第四十一海軍航空廠千歳支廠長殿

消耗兵器(年額)供給ニ關スル件通牒
首題ノ件毎(教育)年度左記ニ依リ供給スベシ

記

兵器名	数量	記	事
機上作業用鉛筆	一打		
機上作業用消ゴム	五個		
常用機ノ偵察員一名ニ付供給スル数量			

航本機密第一〇七七四號

昭和十九年八月二十九日

海軍航空本部長

第一、第二、第十一、第十二、
第二十一、第二十二、第三十一、
第四十一、第五十一、第六十一、
第四十一海軍航空廠千歳支廠長 殿

藥奏用液狀グリース供給ノ件通牒
首題ノ件自今左記ニ依リ供給スベシ

品名	使用機銃彈藥包	數量	記	事
藥奏用液狀グリース	三十耗機銃彈藥包	一立	三、〇〇〇個ニ供給スル數	
	二十耗機銃彈藥包	一立	五、〇〇〇個ニ供給スル數	
	十三耗機銃彈藥包	一立	八、〇〇〇個ニ供給スル數	
	七耗機銃彈藥包	一立	一〇、〇〇〇個ニ供給スル數	

航本機密第一〇八三七號

昭和十九年八月三十一日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿
零式戰鬥機五二型用プロペラ角度變更ニ關スル件照會
首題ノ件左記ニ依リ使用ノコトニ定メラレ候

秘海軍公報 第四七八八號 昭和十九年九月二日

記

名	稱	現行	變更	記事
プロペラ	取付角一組立ピッチ	三元度	三元度	
AGM5用	取付角一組立ピッチ	三元度	三元度	
			五二度	

一 既納プロペラ名盤二五〇個東盤五八六個横補三五個合計八七一一個ニ對シテハ住友金屬工業株式會社ヨリ技術者派遣ノ上變更セシムルモトス

○雜款

○司令驅潛艇變更

第二十一驅潛隊司令ハ八月十九日司令驅潛艇ヲ第十八號驅潛艇ニ變更セリ

○服裝

羅津方面ニ於ケル第二種軍裝着用品間ヲ八月末日迄トス

○閉廳

大湊海軍人事部ハ九月一日青森縣下北郡大湊町ニ閉廳セリ

○閉校

横須賀海軍通信學校藤澤分校ハ九月一日海軍電測學校トシテ獨立閉校セリ

所在地 神奈川縣藤澤市下土棚
海軍電話 横領交換四九番、五〇番

一一八九

1234

當校ニ至ル順路(旅費支給上ノ起點ハ東海道線藤澤驛)

- 一 東海道線藤澤驛ニテ東京急行電鐵(江ノ島―新宿線)ニ
乗換新長後下車徒歩約二十分
- 二 横須賀線戸塚驛ニテ下車戸塚―長後(七軒)間バス利用
長後下車徒歩ニテ約二十分

(海軍電測學校)

○事務開始

軍艦葛城艦裝員事務所ヲ八月十五日吳海軍工廠内ニ設置シ事務
ヲ開始セリ

驅逐艦檜艦裝員事務所ヲ八月二十四日横須賀海軍工廠内ニ設置
シ事務ヲ開始セリ

第三百九設營隊ハ八月二十八日霞ヶ浦海軍航空隊内ニ於テ事務
ヲ開始セリ

第三百七設營隊ハ八月二十八日香取海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ
開始セリ

○事務所移轉

第三十七魚雷調整班ハ八月十四日横須賀海軍航空隊大分遣隊
ヨリ沖繩縣那覇小祿基地ニ移轉セリ

○事務所撤去

第百五十七號特設輸送艦裝員事務所ハ八月十八日之ヲ撤去セ
リ

第四十二號海防艦裝員事務所ハ八月二十五日之ヲ撤去セリ

大東亞戰爭歿者故海軍少佐宮崎直樹外諸勇士ノ合同海
軍葬儀ヲ來九月十一日〇九〇〇高知市城東國民學校ニ於
テ佛式ニ依リ執行ス

秘

海軍公報

第四七八九號

昭和十九年九月三日(日)

海軍大臣官房

命令 達

内令第一〇〇二號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十八日

海軍大臣 臣

特務艇、驅潛特務艇第一號型ノ項中「第二百二十五號」ノ下ニ「、第二百二十六號、第二百二十七號、第二百二十八號、第二百二十九號、第二百三十號、第二百三十一號、第二百三十二號、第二百三十三號、第二百三十四號、第二百三十五號、第二百三十六號、第二百三十七號、第二百三十八號、第二百三十九號、第二百四十號、第二百四十一號、第二百四十二號、第二百四十三號、第二百四十四號、第二百四十五號」ヲ加ヘ「第二百五十一號型」ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令第一〇〇三號

第二百二十一號驅潛特務艇

右本籍ヲ大阪警備府ト定ム

昭和十九年八月二十八日

海軍大臣 臣

内令第一〇〇四號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十八日

海軍大臣 臣

紀伊防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百五十一號(阪)」ヲ「第二百五十二號(阪)」ニ改ム

(内令提要卷三、四八ノ二頁参照)

内令第一〇〇五號

第二百五十一號驅潛特務艇

右本籍ヲ大阪警備府ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十九年八月二十八日

海軍大臣 臣

内令第一〇〇六號

第二百三十六號驅潛特務艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

第二百三十七號驅潛特務艇

第二百二十六號驅潛特務艇

第二百二十七號驅潛特務艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

一一九一

秘海軍公報 第四七八九號 昭和十九年九月三日

1236

- 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス
 - 第二百三十一號驅潛特務艇
 - 第二百三十二號驅潛特務艇
 - 第二百三十三號驅潛特務艇
 - 第二百三十四號驅潛特務艇
 - 第二百四十四號驅潛特務艇
 - 第二百四十五號驅潛特務艇
- 右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス
 - 第二百三十八號驅潛特務艇
 - 第二百二十九號驅潛特務艇
 - 第二百四十號驅潛特務艇
 - 第二百四十一號驅潛特務艇
- 右本籍ヲ大阪警備府ト假定ス
 - 第二百三十號驅潛特務艇
 - 第二百四十二號驅潛特務艇
- 右本籍ヲ鎮海警備府ト假定ス
 - 第二百二十八號驅潛特務艇
 - 第二百三十五號驅潛特務艇
 - 第二百三十九號驅潛特務艇
 - 第二百四十三號驅潛特務艇

海軍大臣

内令兵第七三號
昭和十七年内令兵第二六號中左ノ通改正ス
昭和十九年八月三十日
海軍大臣

第一號中「アツタ」發動機二二型ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

同	アツタ	三型	昭和十九年八月	從來十三試ホ號發動機改一〇 (AETIP)ト稱シタルモノ
同	アツタ	三型	昭和十九年八月	三型ノ充電用發電機ヲ一
同	發動機	三型	昭和十九年八月	五型ニ換裝シタルモノ

(參照) 昭和十七年内令兵第二六號ハ航空發動機名稱ノ件ナリ

内令兵第七四號
「アツタ」發動機三一型及三二型ヲ兵器ニ採用ス
昭和十九年八月三十日
海軍大臣

内令兵第七五號
昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正ス
昭和十九年八月三十一日
海軍大臣

第一項(二)呼稱番號區分中

松島海軍航空隊	マシ	三澤海軍航空隊	ミサ
松島海軍航空隊	マシ		

神ノ池海軍航空隊 コウ
 名古屋海軍航空隊 ナコ
 清水海軍航空隊 シミ
 神ノ池海軍航空隊 コウ
 名古屋海軍航空隊 ナコ
 小松海軍航空隊 コマツ

改ム
 附則
 本令ハ昭和十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

參照 昭和十一年内令兵第四五號ハ航空機番號附與法及其ノ表示方
 ノ件ナリ(内令提要卷三、二二六ノ四ノ一頁參照)

官房人機密第一六九〇號
 海軍練習航空隊ニ配屬セラレ昭和十九年五月三十一日前ニ教程
 ヲ卒業シタル海軍豫備學生ニシテ同日海軍少尉ニ任用セラレタ
 ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ任用ノ日附ヲ以テ各配屬航空隊ノ隊附
 兼教官ニ補セラレタル義ト心得ベシ

昭和十九年九月一日

海軍大臣

官房經機密第一三四八號
 氣象圖誌ノ兵備品出納命令官同會計官吏及同取扱主任ノ區分ヲ
 左ノ通定ム

昭和十九年九月二日

普通氣象圖誌		秘密氣象圖誌		品目	海軍大臣
氣象部長	軍需部長	氣象部長	軍需部長	出納命令官	兵備品取扱主任
※兵科士官タル 氣象部部長	※兵科士官タル 軍需部部長	※兵科士官タル 氣象部部長	※兵科士官タル 軍需部部長	會計官吏	
氣象部部長	軍需部部長	氣象部部長	軍需部部長	兵備品取扱主任	
※兵科士官タル 氣象部部長	※兵科士官タル 軍需部部長	※兵科士官タル 氣象部部長	※兵科士官タル 軍需部部長		
航空隊 飛行長	通信隊 通信長(兵科士官)	海軍航空隊 飛行長	海軍航空隊 飛行長		

備考

- 一 兵備品取扱主任ニ相當スル職員ヲ置カザル艦船部隊其ノ他各部ニ在リテハ所屬長部下判任官以上ニ之ヲ命ジ其ノ官職氏名ヲ所屬兵備品會計官吏ニ通報スベシ
- 二 分任兵備品會計官吏ヲ置クノ必要アルトキハ兵備品出納命令官之ヲ命免シ其ノ旨報告スベシ
- 三 驅逐隊、潜水隊、水雷隊、掃海隊及驅逐隊司令部用氣象圖誌ノ兵備品取扱主任ハ司令乘艦ノ驅逐艦、潜水艦、水雷艇、掃海艇及驅逐艇兵備品取扱主任ヲ以テ之ニ充ツ
- 四 出納命令官ハ※印ヲ附シタル會計官吏ヲ命免シ其ノ官職氏名ヲ報告スベシ

○雜 款

○正誤

八月二十六日秘海軍公報第四七八一號令達欄海軍戰時特令給與規則中改正第一條中「特ニ定メラレタルモノ」ハ「特ニ定メタルモノ」ノ誤、第二條ノ四中「准士官以上」及「俸給ノ五分ノ一」ノ下ニ夫々「」ヲ脱ス、第四表ノ三中

判任文官 雇員 備人
同 待 遇 者 長 以
工 (網) 外 工 (網) 員

ハ
判任文官 雇員
同 待 遇 者 備 人

ノ誤

○本日普通公報發行セズ

秘

海軍公報 第四七九〇號

昭和十九年九月四日(月) 海軍大臣官房

○令 達

内令第一〇〇七號

第二百十號驅潛特務艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

昭和十九年八月二十九日

海軍大臣

内令第一〇〇八號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十九日

海軍大臣

舞鶴防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百九十五號(舞)」ノ次ニ「第二百十號(舞)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)

内令第一〇〇九號

第四十六號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第四十六號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年八月二十九日

海軍大臣

○通 牒

海人第一八五號ノ二六

昭和十九年八月二十五日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

應召中ノ豫備士官ニ對スル支那事變行賞ニ關スル件照會

首題ノ件現ニ海軍ニ應召中ノ豫備士官ニシテ支那事變論功行賞ニ於テ海軍關係以外ノ功績ニ依リ行賞セラレタル者ニ對シ九月十五日現在ニ於ケル部下豫備士官ニ付調査シ左記記註例ニ依リ履歷書副本ニ記入ノ上履歷記註事項トシテ速ニ通報相成度追テ本件ハ在郷中及應召後海軍關係以外ニテ行賞セラレタル者ニシテ通報ナキ爲事務上支障有之候ニ付本人ニ付洩レナク調査通報相成度

〔註例記〕

記

秘海軍公報 第四七九〇號 昭和十九年九月四日

一一九五

年月日	奉職記亭	署名
昭和十九年八月二十三日	支那事變ニ於ケル功ニ依リ勳六等單光旭 日章及金八百圓ヲ授ケ賜フ(勳記番號旭 第 號)	
月 日	支那事變從軍記章授與 (陸軍關係) 賞勳局 同 右	

艦本機密第一一號ノ一四五〇四

昭和十九年八月二十三日

海軍艦政本部總務部長

内閣各海軍監督長、首席監督官殿

造船用資材並ニ成品ノ輸送ニ關スル件照會

昭和十八年六月九日艦本機密第一一號ノ七四二五ニ據ル首題ノ件中小荷物扱及小口扱貨物ニ關シテハ別紙ノ通處理ノコトニ運輸通信省ヨリ各關係ノ向ニ通牒セラレ候條了知相成度

(別紙)

鐵道車輛關係、造船關係、自動車關係資材及部品ノ運送方ニ關スル件(鐵總業務局、自動車局)
小荷物扱及小口扱ニ依ル鐵道車輛關係資材及部品(以下單ニ車輛資材ト稱ス)、造船關係資材及部品(以下單ニ造船資材ト稱ス)、自動車關係資材及部品(以下單ニ自動車資材ト稱ス)ノ受託並ニ輸送方ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ取扱フベシ

- 一 車輛資材、造船資材又ハ自動車資材トシテ運送ヲ爲スモノハ荷送人ヨリ關係官衙又ハ關係監督官發行ニ係ル證明書ヲ提出セシムルコト
- 二 小荷物扱及小口扱貨物ニ對シテハ荷送人ヲシテ(船)、(商)、(船)又ハ(自)ト朱書(又ハ捺印)セル荷票ヲ括付セシムルコト
- 三 小荷物扱ニ依ル貨物一箇ノ重量ハ五十瓊迄トシ容積及長さニ關シテハ一般小荷物扱ノ制限ニ依リ、此ノ制限ヲ超ユルモノニ在リテハ鐵道局長ノ指示ヲ受クルコト
- 四 小荷物扱及小口扱貨物ニシテ積込列車ノ指定ヲ希望シ又ハ積卸ニ對シテ注意ヲ要スルモノニ付荷主ノ申出アル場合ハ荷送人又ハ荷受人ヲシテ積卸作業ニ協力セシメ得ルコト
- 五 小口扱ニ依ルモノニ對シテハ小口扱貨物申告書ヲ託送ノ際提出セシメ又ハ之ヲ省略シ直ニ受託シ得ルコト
- 六 集貨及配達作業ハ鐵道輸送ニ即應スル如ク優先的且計畫的ニ之ヲ行ハシムルト共ニ努メテ自家運搬力ノ活用ヲ圖ラシムルコト
- 七 小荷物扱及小口扱貨物ノ車内積付ハ一般貨物ト區別シ破損、亡失ヲ防止スルト共ニ輸送ノ適確ヲ期スルコト
- 八 小口扱貨物ハ別ニ定ムル専用代用車及指定列車圖表ニ依リ輸送シ之ニ依リ難キ場合ハ速達シ得ル列車ヲ選定シ輸送スルコト
- 九 前號ノ専用代用車及指定列車圖表ハ昭和十九年五月十五日運輸通信公報通報航空關係荷物運送方ニ定ムルモノト共通ト

(自) (船) (商) (輸)

(艦本機密第一二號ノ一四五〇四) 様式

(昭和十九年九月四日海軍公報)

第 號

車輛關係 荷物證明書
自動車關係

(託送者) 氏名

納入先		輸送區間		輸送期間		輸送物件		※所要車		※月實		日際輸送		別	
發	著	發	到	種	簡	容	車	發	輸	輸	輸	輸	別	要	摘
送	送	送	著	類	數	積	輛	送	送	送	送	送	類	要	摘
日	日	日	日	數	又	又	數	日	日	日	日	日	數	要	摘

(發行責任者) 職官氏名

印

右ハ 車輛關係 荷物タルコトヲ證明ス
自動車關係

調製上ノ注意

- 一 本證明書ハ鐵道、船舶、小運送共通トシ小荷物扱及小口扱ノ場合ハ※印欄ノ記入ヲ要セス
 - 二 本證明書ニ該當スル輸送請求書並ニ貨物ノ實體及荷札ニ車輛資材ハ(輸)、造船資材ハ(商)又ハ(船)、自動車資材ハ(自)ノ標識ヲ附スルモノトス
 - 三 本證明書發行責任者ハ左ノ通
- 製作監督官
- 車輛關係
 - 造船關係 (海軍關係 其他)
 - 自動車關係
- 海軍艦政本部總務部長トシ緊急已ムヲ得サル場合ハ監督長 (首席監督官)
運輸通信省海運總局船局長、地方長官又ハ工場監理官
軍需監理官又ハ運輸通信省關係官

1242

<p>ス</p> <p>十 小口混載車扱ニ依ルモノハ原則トシテ當日發送シ得ル場合ニ限リ引受ケシムルコト</p> <p>十一 専用代用車連結列車ノ通過驛發着ノモノハ貨物輸送手續第百八條ニ依リ停車驛ニ於テ中繼ヲ爲スコト、此ノ場合ノ中繼指定驛ハ昭和十八年九月十五日運輸通信公報通報小口貨物輸送方(包)號ニ依ルコト</p> <p>十二 荷主ニ於テ使用シタル私有通箱ヲ返送スル場合ハ各資材ニ準ジ取扱フコト</p> <p>十三 證明書様式左ノ通 (様式添)</p>	<p>○ 雜 款</p> <p>○ 開廳 大湊海兵團ハ九月一日青森縣下北郡田名部町ニ開廳セリ 旅行順路 大湊線下北驛下車(徒歩約五分) 追テ當方面住宅拂底ニ付家族移轉ハ差當リ見合セラレ度 (大 湊 海 兵 團)</p>	<p>○ 開隊 小松海軍航空隊ハ九月一日石川縣江沼郡篠原村ニ開隊セリ 旅行順路 石川縣江沼郡篠原村(北陸本線動橋驛乘換片山津軌道終點下</p>
<p>車徒歩約二軒)</p> <p>○ 事務開始 第四十一號海防艦艦裝員事務所ヲ八月二十七日神奈川縣橫濱市鶴見區辨天町十七日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p> <p>伊號第三百七十二潜水艦艦裝員事務所ヲ八月二十八日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p> <p>○ 事務所撤去 第三十一號海防艦艦裝員事務所ハ八月二十一日之ヲ撤去セリ 第百〇二海軍軍需部第二十一糧食生産隊事務所ハ八月二十九日之ヲ撤去セリ 第四十四號海防艦艦裝員事務所ハ八月三十日之ヲ撤去セリ</p>	<p>大東亞戰爭戰歿者故海軍中將門前 鼎外諸勇士ノ合同海軍葬儀ヲ來九月二十六日一〇三〇横須賀海兵團ニ於テ佛式ニ依リ執行ス</p>	<p>○ 本日普通公報發行セズ</p>

秘海軍公報 第四七九〇號 昭和十九年九月四日

二二九七

秘

海軍公報

第四七九一號

昭和十九年九月五日(火)
海軍大臣官房

○令 達

達第二八八號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦二隻、潜水艦三隻、海防艦十五隻、輸送艦二隻及特務艦一隻ニ左ノ通命名ス

昭和十九年九月一日

海軍大臣

横須賀海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 樺 (ケヤキ)

驅逐艦 橋 (タチバナ)

吳海軍工廠ニ於テ建造

伊號第二百四潜水艦

三菱重工業株式會社神戸造船所ニ於テ建造

波號第七潜水艦

波號第九潜水艦

第六十九號海防艦

浦賀船渠株式會社ニ於テ建造

海防艦 新南 (シンナン)

三井造船株式會社玉野造船所ニ於テ建造

海防艦 稻木 (イナギ)

海防艦 羽節 (ハブシ)

依世保海軍工廠ニ於テ建造

海防艦 宇久 (ウク)

海防艦 久賀 (クガ)

日立造船株式會社ニ於テ建造

海防艦 生名 (イクナ)

海防艦 四阪 (シツカ)

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

第五十三號海防艦

第五十五號海防艦

舞鶴海軍工廠ニ於テ建造

第八十一號海防艦

株式會社新潟鐵工所ニ於テ建造

第二百十五號海防艦

株式會社東京石川島造船所ニ於テ建造

第七十二號海防艦

三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造

第七十四號海防艦

第七十六號海防艦

三菱重工業株式會社横濱船渠ニ於テ建造

第十三號輸送艦

秘海軍公報 第四七九一號 昭和十九年九月五日

一一九九

1244

<p>第十六號輸送艦 株式會社播磨造船所ニ於テ建造 第五百十號海防艦 特務艦 針尾(ハリオ)</p>	<p>內令第一〇二〇號 第三百三十七號特設輸送艦 右佐世保領守府所管ト定メラル 昭和十九年八月三十日 海軍大臣</p>	<p>內令第一〇二一號 舞鶴領守府豫備艦 軍艦 木會 右練習警備艦ト定メ練習ノコトニ關シテハ横須賀海軍砲術學校 長ノ指揮ヲ受ケシメル 昭和十九年八月三十日 海軍大臣</p>	<p>內令第一〇二二號 第三十三號海防艦 右本籍ヲ横須賀領守府ト定メラル 横須賀領守府在籍 第三十三號海防艦 右警備海防艦ト定メラル</p>
<p>第四十四號海防艦 右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル 佐世保領守府在籍 第四十四號海防艦 右警備海防艦ト定メラル 昭和十九年八月三十一日 海軍大臣</p>	<p>內令第一〇一三號 第二百二十五號驅潛特務艇 右本籍ヲ横須賀領守府ト定メ 昭和十九年八月三十一日 海軍大臣</p>	<p>內令第一〇一四號 昭和十八年內令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年八月三十一日 海軍大臣 横須賀防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第八十三號(横)」ノ次ニ 「第二百二十五號(横)」ヲ加フ (內令提要卷三、四八ノ二一頁參照)</p>	<p>內令第一〇一五號 左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム</p>

昭和十九年八月三十一日

海軍大臣

船名	特設艦船種別	所	管
汽船 水天丸	特設運送船(雜用船)	吳	鎮守府

内令第一〇一六號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月一日

海軍大臣

驅逐艦、一等松型ノ項中「楓」ノ下ニ「櫻、橘」ヲ加フ
 潜水艦、一等伊二百一型ノ項中「伊號第二百三」ノ下ニ「伊號第二百四」ヲ、同三等波百一型ノ項中「波號第六六」ノ下ニ「波號第六七、波號第六九」ヲ加フ
 海防艦、御藏型ノ項中「久米」ノ下ニ「生名、四阪」ヲ、同鶴來型ノ項中「栗園」ノ下ニ「新南」ヲ、同「屋久」ノ下ニ「稻木、羽節、宇久、久賀」ヲ、同第一號型ノ項中「第五十一號」ノ下ニ「第五十三、號第五十五號」ヲ、同「第六十七號」ノ下ニ「第六十九號、第八十一號」ヲ、同「第二百七號」ノ下ニ「第二百十五號」ヲ、同第二號型ノ項中「第六十八號」ノ下ニ「第七十二號、第七十四號、第七十六號」ヲ、同「第三百十八號」ノ下ニ「第三百五十號」ヲ加フ
 輸送艦、一等第一號型ノ項中「第十二號」ノ下ニ「第十三號、第十六號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第一〇一七號

特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月一日

海軍大臣

運送艦、洲崎型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

針尾型 針尾

(内令提要卷三、四一頁参照)

官房備第七三號ノ一〇

官房備第七三號ノ六ニ依ル第十七海軍軍用郵便所ハ九月一日ヨリ事務ヲ開始ス

昭和十九年九月一日

海軍大臣

(参照) 八月一日秘海軍公報本欄

官房經第八四七號

昭和十七年官房第四九三二號第五項ノ通報ハ當分ノ間之ヲ省略スルコトヲ得

昭和十九年九月四日

海軍大臣

(参照) 昭和十七年官房第四九三二號ハ海軍工廠資材部外ニ賣拂フ件ナリ(海軍會計法規類集一卷六九四頁)

秘海軍公報 第四七九一號 昭和十九年九月五日

1101

○通牒

官房備機密第五三三號

昭和十九年九月四日

海軍次官

關係各廳長殿

空襲災害地復舊資材支援ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通軍需次官ヨリ依頼有之候處空襲激化ヲ豫想セララルル現狀勢ニ鑑ミ北九州ノミナラズ空襲災害地ニ於ケル復舊資材支援等ニ關シ可及的協力方可然取計相成度

(別紙)

一九總第八〇一五號

昭和十九年八月二十四日

軍需次官

海軍次官殿

北九州空襲被害復舊必要資材ノ緊急支援方依頼ノ件

今般空襲ニヨル北九州地區ノ被害復舊ニ關シテハ相當多量ノ資材ヲ要スルモノト思料セララルル處之方資材ノ手當ハ緊急ヲ要スルヲ以テ貴省所管ニ係ル當該資材ニ付テモ之方融通等十分ノ御支援賜度管下關係官宛本趣旨傳達方相煩度

○雜款

○履歷照合停止

事務ノ都合上士官、豫備士官、候補生、見習尉官、文官ノ履歷照合ハ左記期間之ヲ停止ス

自九月七日

至十月十日

記

(海軍省人事局)

○開團

當團及田邊分團ハ九月一日左ニ開團セリ

大阪海兵團 大阪市住吉區杉本町

同 田邊分團 和歌山縣田邊市文里

旅行順路

大阪海兵團

京都吳方面ヨリ大阪驛乘換城東線天王寺驛乘換區和線杉本町驛下車徒歩約三分、奈良方面ヨリ關西本線天王寺經山天王寺驛下車阪和線杉本町驛下車、和歌山方面ヨリ阪和線杉本町驛下車

田邊分團

紀伊西線田邊驛下車徒歩約二十分

追テ田邊分團轉勤者ハ直接同團ニ向ケ赴任セシメラレ度

(大阪海兵團)

○本日軍秘海軍公報第一三號(乙配付)發行セリ



海軍公報 第四七九二號

昭和十九年九月六日(水)
海軍大臣官房

○令 達

達第二九〇號

燃料試驗規格中左ノ通改正ス

昭和十九年九月五日

海軍大臣

乙「メタノール」ノ規格ノ次ニ乳化防蝕油ノ規格ヲ左ノ如ク加フ

乳化防蝕油

本油ハ主トシテ精製礦油ト潤滑油精製時ニ副生スル曹達石鹼トヨリ成リ均一ナル組成ヲ有シ補助耐擦噴射燃料用防蝕劑トシテ適當ナルモノニシテ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス

- 一 礦油分(試驗法第三二號) 六〇%以上
 - 二 水分(試驗法第二號) 二〇—二五%
 - 三 灰分(試驗法第九號) 三・五%以下
 - 四 遊離アルカリ(試驗法第三二號) 一・〇%以下
 - 五 酸價(試驗法第二一號) 〇・五%以下
 - 六 芒硝 〇・五%以下
 - 七 塩化ナトリウム 〇・一五%以下
 - 八 乳化試驗
- 水五〇容一號「メタノール」又ハ二號「アルコール」五〇

容ノ混合液ニ對シ本油〇・五%容添加シ一分間振盪シ二十四時間放置スルモ油分ノ分離セザルコト

九 腐蝕試驗

水五〇容一號「メタノール」又ハ二號「アルコール」五〇容ノ混合液ニ對シ本油〇・三%容添加セルモノニ銅線ヲ捲キタルアルミニウム板及炭素鋼板(イ〇〇三)ヲ半分空氣中ニ出シテ浸漬シ攝氏六〇度(±五度)ニ保テ四十八時間經過スルモ腐蝕セザルコト

内令第一〇一八號(軍機秘公報(甲配付)ニ掲載)

内令第一〇一九號

驅逐艦	樺
同	橘
海防艦	阪
第七十二號海防艦	
第七十四號海防艦	
第七十六號海防艦	
第十三號輸送艦	
第十六號輸送艦	

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

秘海軍公報 第四七九二號 昭和十九年九月六日

一一〇三

<p>内令第一〇二〇號 第三百二號驅潛特務艇</p>	<p>伊號第二百四潛水艦 波號第七潛水艦 波號第九潛水艦 海防艦 稻木 同 羽節 同 宇久賀 同 久賀 第五十三號海防艦 第五十五號海防艦 第五十號海防艦 特務艦 針尾 右本籍ヲ吳鎮守府卜假定ス 海防艦 新南 同 生名 第二百十五號海防艦 右本籍ヲ佐世保鎮守府卜假定ス 第六十九號海防艦 第八十一號海防艦 右本籍ヲ舞鶴鎮守府卜假定ス 昭和十九年九月一日 海軍大臣</p>
<p>昭和十九年九月一日 海軍大臣</p>	<p>右本籍ヲ橫須賀鎮守府卜定ム 第三百一號驅潛特務艇 右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定ム 昭和十九年九月一日 海軍大臣 内令第一〇二一號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年九月一日 海軍大臣 橫須賀防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第七十一號(橫)」ノ次ニ「第二百一號(橫)」ヲ加フ 佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百號(佐)」ノ次ニ「第二百一號(佐)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二頁参照) 内令第一〇二三號 橫須賀鎮守府所管 特設運送船(給水船)和洋丸 右特設運送船(雜用船)ト改ム 昭和十九年九月一日 海軍大臣</p>

<p>内令第一〇二三號 海軍通信隊ノ所屬、名稱、所在地及種別ノ件中左ノ通改正セラ ル 昭和十九年九月一日 海軍大臣</p>		<p>横須賀鎮守府ノ部横須賀海軍通信隊ノ項中 大島 己 ヲ削ル (内令提要卷一、三〇ノ四八頁参照)</p>	
<p>内令第一〇二四號 海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件中左ノ通改 正セラ 昭和十九年九月一日 海軍大臣</p>		<p>横須賀鎮守府ノ部中霞ヶ浦海軍航空隊ノ項ノ前ニ左ノ如ク加フ 三澤海軍航空隊 青森縣上北郡 同部中北浦海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ 清水海軍航空隊 静岡縣清水市</p>	
<p>吳鎮守府ノ部中第九三三海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ 第九三三海軍航空隊 佐伯航空基地 (大分縣南海郡)</p>		<p>舞鶴鎮守府ノ部中滋賀海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ 小松海軍航空隊 石川縣小松市 (内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)</p>	
<p>内令第一〇二五號 昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正 ス 昭和十九年九月一日 海軍大臣</p>		<p>樺山航空基地 大湊海軍航空隊 三澤航空基地 大湊海軍航空隊 三澤航空基地 第一二航空隊 明治航空基地 關東海軍航空隊 第二鈴鹿航空基地 關東海軍航空隊 八丈島航空基地 關東海軍航空隊 明治航空基地 關東海軍航空隊 第二鈴鹿航空基地 第一〇〇海軍航空隊 八丈島航空基地 關東海軍航空隊</p>	

秘海軍公報 第四七九二號 昭和十九年九月六日

一一〇五

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第一〇二六號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ通改正セラル

昭和十九年九月一日

海軍大臣

「郡山海軍航空隊」ノ前ニ「三澤海軍航空隊」ヲ、「藤澤海軍航空隊」ノ次ニ「潜水海軍航空隊」ヲ、「滋賀海軍航空隊」ノ次ニ「小松海軍航空隊」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

内令第一〇二七號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年九月一日

海軍大臣

「滋賀海軍航空隊」ノ下ニ「三澤海軍航空隊、潜水海軍航空隊、小松海軍航空隊」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

官房第八四九號

昭和十七年官房第五〇九號中左ノ通改正ス

昭和十九年九月五日

第二號表中海軍艦政本部ノ項會計官吏ノ欄

海軍大臣

造船造兵監督會計官
會計部勤務ノ高等官タル職員

「會計部勤務ノ高等官タル職員」ニ改メ

海軍航空本部ノ項會計官吏ノ欄

造船造兵監督會計官
會計部勤務ノ高等官タル職員

「會計部勤務ノ高等官タル職員」ニ改メ

(参照) 昭和十七年官房第五〇九號ハ兵器等製造事業特別助成ニ要スル機械器具等ノ田納保管ニ關スル件ナリ(會計法規類集四卷一、二八ノ五頁)

○通牒

軍需二機密第八三七號

昭和十九年九月五日

海軍航空本部
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

乳化防蝕油取扱ニ關スル件通牒

補助耐爆噴射燃料ニ混合(クロム酸加里)同様ノ目的ニ使用スベキ首題油ハ差當リ左記ニ依リ取扱相成度

記

- 一 調合ノ割合ハ甲・乙「メタノール」又ハ甲・乙「アルコール」共二〇〇立ニ對シ本油〇・六立（〇・三％容）トス
- 二 調合方法ハ先ヅ「ドラム」罐ニ水一〇〇立（罐容量ノ半分）ヲ入レ次ニ本油〇・六立（計量容器ナキ場合ハ譽發動機動弁腕室蓋ニテ六杯）ヲ混合攪拌後更ニ一號「メタノール」或ハ二號「アルコール」一〇〇立ヲ追加混合シ攪拌或ハ振盪シ完全ニ乳化セシム
- 若シ寒冷ノ候乳化不良ナル場合ハ水ニ先ヅ「メタノール」又ハ「アルコール」ヲ混合シソノ溫度自然ニ上昇シタル後本油ヲ混合攪拌スルヲ可トス液面ニ不純物浮遊スルコトアラバ該浮遊物ハ除去スルモノトス
- 甲「メタノール」又ハ甲「アルコール」ニ調合スル場合モ本要領ニ準ジテ行フモノトス
- 三 水ハ從來水道水程度或ハ雨水ヲ使用スルモノトス
- 四 本油ハ極端ナル熱氣ニ曝サザル様注意ヲ要ス
- 五 本油ヲ混合セル補助耐爆噴射燃料ヲ飛行機ニ搭載スル際ハ必ラズ濾網ヲ以テ濾過スルモノトス
- 六 本油ヲ使用スル場合ハクロム酸カリハ之ヲ使用ノ要ナシ

（備考）

本油ノ調合ハ使用現場ニテ行フヲ例トスルモ特ニ水ノ入手不便ナル場所ニ對シテハ要求ヲ俟テ軍需部ニテ調合シ之ヲ送付スルモノトス

軍需二機密第八三八號

昭和十九年九月五日

海軍省軍需局長

關係各廳長宛

燃料等ノ貯藏供給ニ關スル件申中改正ノ件通牒

昭和十三年軍需機密第二五七號通牒首題ノ件申一、貯藏ノ部

(四) 原料ノ貯藏ノ表中クロム酸カリノ項ノ次ニ

「乳化防蝕油」 乳化油 N 補助耐爆噴射燃料用混合原料」ヲ加フ

（總督府燃料取扱規程第三九五頁參照）

艦本機密第三號ノ一四六七三

昭和十九年八月二十六日

海軍艦政本部總務部長

關係各監督長ニ各首席監督官一殿

二キロ信號燈附屬電球ニ關スル件通知

首領兵器用二KW電球（常用及補用）ハ從來燈器製造會社ニテ

準備シ燈器ニ附屬シ納入シ居リタルモ自今燈器ニ附屬セシメズ

裝備ノ際在庫品中ヨリ別途常用補用各一個ヲ供給スルコトニ改正セラレ候條了知相成度

艦本機密第五號一五三七五

昭和十九年九月四日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、吳、佐世(海軍工廠總務部長)
 保、廣、舞鶴、光(工作部長)
 各海軍監督長、首席監督官

不銹鋼第二種タービン翼材料試験中一部省略
 二關スル件照會

海軍造船機造兵主要材料試験検査規則第二編第二十四章タービン翼材規格中第三條鋼材ニ對スル屈曲試験ハ當分ノ間不銹鋼第二種材料ニ限リ省略シ差支ナキコトニ定メラレ候

航本機密第一一〇〇四號

昭和十九年九月四日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

プロペラ流用ニ關スル件通知

左記プロペラ翼取付角度變更ノ上慧星一二型用トシテ使用差支無之候

記

一 慧星一二型用プロペラ高ビツチ五〇度(五一度)低ビツチ二二度(二二度)ヲ高ビツチ五二度(五一度)低ビツチ二四度ニ變更

二 従來同一プロペラ組立時ニ於テ隨時組立角度ヲ變更シ使用シ來レル處翼筒(部番七六〇一二號)ノ材質プロンズ製ヲ可鍛鑄鐵製ニ移行セラレ前者ハ調整孔三六個ナルニ後者ハ四個トナリ組立角度變更不能ヲ來シタルニヨリ之レガ流用ニ關シ

テハビツチ調整ボルト(部番七三三三五、七三〇四七號)ニ座板ヲアテ五一度―二四度ニ調整使用スルモノトス 高ビツチ五二度ニハ至ラザルモ飛行ニハ差支無之

○雜款

○事務所撤去

第三十三號海防艦機裝員事務所ハ八月三十一日之ヲ撤去セリ

○殘務整理

第三六一海軍航空隊ハ八月十八日以降佐世保海軍經理部殘務整理ニ於テ之ヲ行フ

○訂正

九月七日執行熊本地方海軍人事部合同海軍葬儀戰歿者名簿中左記削除ス

記

順位	官職	氏名	本籍	遺族	職	職發場所
1	大佐	伊豆澤市	大分縣下毛郡鶴居村大字萬田	妻貞子	十九年三月二十日	南太平洋方面戰死

○正誤

七月二十日附海軍公報(部内限)九九二頁軍務一機密第五九二號艦船應急用器材定數標準改正ノ件通知添附別表第一中驅逐艦松型電動移動「ポンプ」0ハ1ノ誤

○本日軍機秘海軍公報第一四號(乙配付)發行セリ

○本日普通公報發行セズ

6 SEPT 44

秘

海軍公報 號外

昭和十九年九月六日(水)
海軍大臣官房

<p>○ 叙 位</p> <p>○ 昭和十九年五月十五日 海軍大尉 大橋 常孝 叙正七位</p> <p>○ 昭和十九年七月五日 海軍大尉 山崎 孝 叙正七位</p> <p>○ 昭和十九年七月十三日 海軍中尉 河津 宗良 叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年七月十四日 海軍大尉 岩佐 之 海軍理事官 平本 龜一 叙正七位</p> <p>○ 昭和十九年七月十五日 海軍少佐 津屋 寛 叙從六位</p>	<p>○ 昭和十九年七月十六日 海軍大尉 平 久親 叙正七位</p> <p>○ 昭和十九年七月十七日 海軍中尉 平田 義光 叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年七月十八日 海軍大尉 北川 正敬 同 伊達 尙 同 渡邊 朝治 海軍中尉 永田 二郎 赤穂 正太郎 古賀 貫之 叙正七位</p> <p>○ 昭和十九年七月二十日 海軍技師 片山 春生 叙正七位</p> <p>○ 昭和十九年七月二十一日 海軍少尉 金子 強治 叙正八位</p> <p>○ 昭和十九年七月二十一日 海軍少尉 猪股 猪松 叙正八位</p>	<p>○ 昭和十九年七月二十二日 海軍少佐 荻野 滿文 叙從六位</p> <p>○ 昭和十九年七月二十四日 海軍中尉 盛 幸雄 叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年七月二十七日 海軍少尉 中山 初郎 叙正八位</p> <p>○ 昭和十九年七月二十七日 海軍理事官 西川 市藏 叙正七位</p> <p>○ 昭和十九年七月二十八日 海軍中尉 後藤 允 叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年七月三十日 海軍教授 寺島留五郎 叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年七月三十一日 海軍少佐 草地 靜夫 叙從六位</p> <p>○ 昭和十九年八月一日 海軍大佐 塚越彦太郎 叙從四位</p>
--	---	---

秘海軍公報 號外

叙正五位	海軍大佐 肥後 市次	海軍中佐 山田 洋	海軍少佐 小野原 保	海軍中尉 本間 關次	海軍少尉 荒木 忠義	海軍中尉 中村 進	海軍少尉 岡本 吉太郎	海軍少尉 田中 國隆	海軍少尉 佐藤 健夫	海軍技術少佐 小島 近雄	海軍技術少佐 脇澤 武	海軍技術少佐 坂本 昇	海軍技術少佐 中島 正彌	海軍技術少佐 富谷 彰介	海軍技術少佐 小島 歡一	海軍技術少佐 岡田 齋	海軍技術大尉 佐々木 成幸	海軍技術大尉 濵井 貞三	海軍技術大尉 中原 茂	海軍技術大尉 中田 一幸	海軍技術大尉 長井 謙次	海軍技術大尉 木野 健男	海軍技術大尉 玉川 嘉政						
叙正六位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同					
(題各)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同					
叙正六位	海軍商科醫大尉 瀬川 又藏	海軍商科醫大尉 山比 親雄	海軍商科醫大尉 眞下 定勝	海軍商科醫大尉 佐溝 三郎	海軍商科醫大尉 星野 二郎	海軍商科醫大尉 新井 敬造	海軍商科醫大尉 山形 繁之	海軍商科醫大尉 守永 實雄	海軍商科醫大尉 横山 鉄彌	海軍商科醫大尉 北川 善道	海軍商科醫大尉 彦坂 吉夫	海軍商科醫大尉 吉島 晃一	海軍商科醫大尉 原田 明治	海軍商科醫大尉 吉本 屋辨治	海軍商科醫大尉 高橋 正治	海軍商科醫大尉 大塚 邦一	海軍商科醫大尉 森 敏夫	海軍商科醫大尉 濵谷 勝治	海軍商科醫大尉 重松 正人	海軍商科醫大尉 野生 司義章	海軍商科醫大尉 師岡 庄次	海軍商科醫大尉 信岡 龍二	海軍商科醫大尉 岡本 慶義	海軍商科醫大尉 森脇 健治	海軍商科醫大尉 北川 義也	海軍商科醫大尉 後崎 寅雄			
叙正五位	湯本 隆二	塚本 隆二	中道 隆二	藤原 隆二	尾本 隆二	松川 隆二	新庄 隆二	木村 隆二	楠村 隆二	石黒 隆二	濱田 隆二	伊丹 隆二	折田 隆二	木目 隆二	折田 隆二	田島 隆二	依田 隆二	熊御堂 隆二	須田 隆二	石黒 隆二	河合 隆二	松島 隆二	鈴木 隆二	伊東 隆二	吉川 隆二	中西 隆二	高森 隆二	錦田 隆二	水野 隆二

(通各)																												
同	同	同	海軍理事官	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	海軍技師								
中川淳造	長島彌幾	齋藤久男	井上精一	宮副徳一	野口徳三	内田熊六	亀井藤太	荒木寅治郎	辻芳彦	白井静一	木下薫三郎	蜂屋保	佐々木義章	秋元藤一	大島廣孝	富永廣孝	藤井英雄	山邊瀧澤	井上信夫	坂本晋四郎	池村重三	苗加孝一	鈴木道三	早川謙吾	清本固	須山智	大倉一彦	
同	同	海軍書記	同	同	海軍屬	同	同	海軍監獄長	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
平野常一	野間松吉	榎宮宇吉	細田勝治	相原章	栗山市作	上田舜夫	山中清一	大曲四郎	坂田文雄	森榮一	平田豊年	小池宗一	永長孫八	小市薫男	京條信夫	原田奉範	金子一守	福井嘉一	野澤賢治	徳永重三郎	中根次郎	西岡熊藏	谷口喜太郎	原崎昊	榎原勉	佐藤光造	豊永幸之輔	
敘正七位																												
同	同	同	同	同	海軍齒科醫中尉	海軍技術中尉	海軍監獄看守長	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
久保田市	志岐義彦	田中秀房	笠原悌三	前田利一	佐藤軍平	高田茂夫	小山善吉	松下直治	川崎宗一	森松五郎	久間金造	安勝彦	大喜多祥序	矢田邊光造	金本眞澄	佐伯花二	橋本九一郎	長岡徳治	志茂外三	加賀美武夫	岡本鉄太郎	金子源三郎	高橋龜太郎	住友増造	林田順吉	前原俊得		

秘

海軍公報 第四七九三號

昭和十九年九月七日(木)
海軍大臣官房

○令 達

達第二九三號

昭和十八年度ニ於テ建造ニ着手ノ軍艦三隻ニ左ノ通命名セラル
昭和十九年九月五日

海軍大臣

三菱重工業株式會社社長崎造船所ニ於テ建造

軍艦 笠 置(カサギ)

吳海軍工廠ニ於テ建造

軍艦 阿 蘇(アソ)

川崎重工業株式會社ニ於テ建造

軍艦 生 駒(イコマ)

内令第一〇二八號

伊號第二百二潛水艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

昭和十九年九月二日

海軍大臣

官房人機密第一六八五號

船舶警戒部ノ職員及其ノ他ノ在籍者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ(特ニ
發令セラルルモノヲ除ク)シテ本年内令員第一六五三號所定ノ

區分ニ依リ横濱警備隊ノ職員ヲ兼務セシメラルル義ト心得ベシ
昭和十九年九月一日

海軍大臣

官房需第二二三號

當分ノ間監視艇乗員ニハ昭和十八年官房需第二〇九號ニ依ルノ
外左記ニ依リ糧食ヲ増給スルコトヲ得
昭和十九年官房需第七六號ハ之ヲ廢止ス
昭和十九年九月五日

海軍大臣

品 種	日 額	旬 額	記 事
生 野 菜	八〇瓦	四〇〇瓦	行動中ニ限り給 スルモノトス以 下同シ
生 果 物			
罐 詰 牛 乳	三〇〇		
(紅茶、ココア又ハコー ヒー、砂糖)	三〇〇		
乳 酸 飲 料	〇〇六立		
果 汁	〇〇三五		
特 種 榮 養 食	五〇瓦		
ビタミン(A)食	一		

秘海軍公報 第四七九三號 昭和十九年九月七日

一一〇九

混汁用ビタミン(B)食	〇・一
混汁用ビタミン(C)食	〇・二

備
 一 本表ノ量額ハ最上限ノ給與量額ヲ示ス
 二 他ノ品種ニ換給ヲ要スルトキハ昭和十八年官房需第二〇九號別表第四ノ規定ニ依リ換給スルモノトス
 三 本表ノ生果物、ビタミン食ノ増給ヲ受クル者ニハ昭和十八年官房需第二〇九號ニ依ル生果物、ビタミン食ヲ給與セズ

(参照) 昭和十八年官房需第二〇九號
 (海軍會計法規類集二卷三三〇ノ一ノ二頁)
 昭和十九年官房需第七六號
 (昭和一九、三、二九海軍公報(部内限))

官房需第一〇八五號
 三菱重工株式會社社長崎造船所ニ於テ建造ノ魚雷艇三隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム
 昭和十九年九月六日

船名	船種	所屬	定數別	記事
第九十六號雷艇	内火艇 (魚雷艇型)	臨時魚雷艇訓練所	臨時附屬	舊第八百七號魚雷艇
第九十七號雷艇	(同)	(同)	(同)	舊第八百二十號魚雷艇
第九十八號雷艇	(同)	(同)	(同)	舊第八百三十號魚雷艇

通牒

艦本機密第一號一五三八三
 昭和十九年九月五日

海軍艦政本部總務部長

橫須賀、相模、吳、海軍工廠總務部長
 佐世保、舞鶴、海軍軍需部長
 橫須賀、吳、佐世保、舞鶴海軍軍需部長
 四十瓦發煙管空罐及煙藥容器空罐回收再用ノ件
 中改正ノ件通知

八月七日艦本機密第一號ノ一三三五七首題通牒(昭和十九年八月十六日海軍公報掲載)中左記ノ通改正相成候
 記

- 一 (一)回收法中「洗滌修理」ヲ削除ス
 (理由) 現地ニ於テハ徹底的洗滌ハ困難ニシテ不徹底ナル洗滌ハ寧ロ惡結果ヲ致ス虞アリ又現地ニ於ケル修理モ實施困難ナルニ付寧ロ修理セシメザル方安全ナリ
- 二 (一)回收法中「送付保轉スルモノトス」ヲ「送付スルモノトス」ニ改ム

航本機密第一〇九八號
 昭和十九年九月五日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿
 不具合事項等ノ速報ニ關スル件照會
 航空機及同關聯兵器ノ不具合事項生起ノ際ニ於ケル速報ニ關シ

テハ從來配慮セラレツツアル所ナルモ最近ニ於テハ零戦等ニモ不具合事項ノ惹起ヲ見又通報手控ノ爲改修對策遲延シ事故ヲ繰返シタル事例モアル實情ニ鑑ミ自今不具合事項ニ對シテハ其ノ原因ヲ探知シ得ザル場合ニ在リテモ遲滞ナク其ノ狀況ノ通報ヲ得連ニ之方原因ノ探索竝ニ改善ニ駭速且有効ナル措置ヲ講ジ以テ事故ノ絶滅及實動率ノ向上ヲ期シ度ニ付速報ニ關シ一層配慮相成度

○雜 款

○司令驅逐艦指定
第二驅逐隊司令ハ八月二十三日司令驅逐艦ヲ早霜ニ指定セリ

○履歷書記ニ關スル件

昨年三月聯合艦隊司令長官ヨリ第二機動部隊ニ感狀授與セラレ續イテ九月前進部隊「ガダルカナル」島攻撃隊ニ對シ感狀授與セラレ候處本艦乗員タリシモノニシテ十七年六月二十四日以後ニ退艦セルモノ及十七年十一月七日以後ニ退艦セルモノニツキ履歷表調査ノ上萬一記入洩アラバ別紙ノ通記註相煩度

(別紙)

年月日	履 歷 記 註 事 項	所 轄 名
一八、五、一六	感狀授與(昭和十八年聯合艦隊告示第九號)セラル	高雄

秘海軍公報 第四七九三號 昭和十九年九月七日

年月日	履 歷 記 註 事 項	所 轄 名
十八、九、十五	昭和十七年六月「アリエトシヤン」群島方面作戰ニ於テ濃霧ヲ冒シ惡天候ニ耐ヘ長驅「ダツチハーバー」ヲ反覆攻撃シ所在ノ敵艦船飛行機ノ大群ヲ撃破シ軍事施設ヲ潰滅シタルハ自後ノ作戰ニ寄與セル所極メテ大ニシテ其ノ功績顯著ナリト認ム仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス 昭和十八年三月十五日 聯合艦隊司令長官 山本五十六	高雄

○開隊
清水海軍航空隊ハ九月一日静岡縣清水市三保町ニ開隊セリ

○事務開始
第三十七號海防艦艇裝員事務所ヲ八月三十日富山市西宮七十一番地日本海船渠工業株式會社内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
(電話 富山 四九八六、五〇四五、五二四二)

伊號第四百潜水艦艇裝員事務所ヲ九月一日吳海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(高 雄 艦 長)

○事務所撤去

驅逐艦杉鷺裝員事務所ハ八月二十五日之ヲ撤去セリ

○轉勤者赴任先ニ關スル件

當隊及戰團三〇三、三〇四飛行隊ヘノ轉勤者ハ當分ノ間北海道網走郡美幌海軍航空基地ニ向ケ赴任ノコトニ取計ハレ度

(第二〇三海軍航空隊)

○旅行順路

本隊ヘノ轉勤者ニ對スル旅費ハ片山津驛ヲ終點トシテ計算相成度

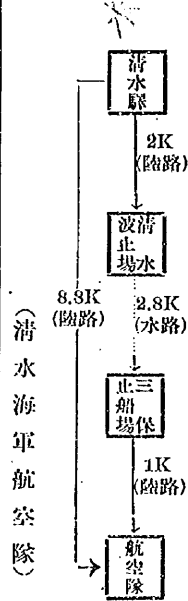
北陸本線動橋乗換片山津驛下車(動橋、片山津間二、七軒)

(小松海軍航空隊)

東海道線清水驛(超終點)下車、驛前ヨリ市電ニテ清水波止場迄十分(料金五錢)清水波止場ヨリ三保止船場迄定期船(静岡電鐵經營)ニテ約十五分(料金拾五錢)三保止船場ヨリ徒歩ニテ約十分

【註】

- 一 定期船ノ清水波止場始發〇六三五終發一八四〇此ノ間約一時間毎ニ運航ス
- 二 陸路ノ場合ハ清水驛ヨリ當隊迄徒歩ニテ約二時間(八、五軒)ナリ「バス」等ノ便ナシ
- 三 略圖



○取消

昭和十九年八月三十一日附秘海軍公報中教育機密第二九七號ノ二八行

○正誤

九月六日秘海軍公報令達欄内令第一〇一八號ノ下方括弧内「甲配付」トアルハ「乙配付」ノ誤

海軍少佐中島宣二八月十一日飛行訓練中遭難殉職八月十三日第二鈴鹿航空基地ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ
海軍少尉候補生伊藤 猛八月十六日飛行訓練中遭難殉職八月十八日虎尾海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

7 SEPT 44

秘

海軍公報 號外

昭和十九年九月七日(木)
海軍大臣官房

○令 達

官房軍第九八六號
吳海軍工廠等ニ於テ保管ノ船艇ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム
昭和十九年八月十四日
海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數別	記事
第一六五三號	內火艇 (九米)	海軍兵學校	定數	吳海軍工廠保管 (九九六)
第一六五四號	同	同	同	同 (九九七)
第一六五五號	同	同	同	同 (一三三三)
第一六五六號	同	同	同	同 (一三三四)
第七一八七號	傳馬船 (八米)	海軍潛水學校	同	同 (四六六)
第七一八八號	同	同	同	同 (四六七)
第七一八九號	同	同	同	同 (一六八)
第七一九〇號	同	吳海軍工廠	同	同 (一七九)
第七一九一號	同	同	同	同 (三五二)

秘海軍公報 號外

公稱番號	船種	舊所屬	新所屬	定數別	記事
第七一九二號	傳馬船 (六米)	吳海軍警備隊	定數	吳海軍工廠保管 (三三五)	
第一六五七號	内火艇 (九米)		臨時附屬	佐世保海軍工廠保管 (三三三)	
第二六一二號	カッター (同)		同	同	
第二六一三號	同		同	同	
第二六一四號	同	臨時魚雷艇訓練所	同	同	
第二六一五號	同		同	同	
第二六一六號	同		同	軍艦日向還納(C三一〇)	
第二六一七號	同		同	同	
第七一九三號	傳馬船 (六米)		同	軍艦加賀還納ノモノ	
第七一九四號	同	高雄海軍運輸部	同	軍艦日向還納(K四二)	

官房軍第九八七號
雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス
昭和十九年八月十四日

海軍大臣

第三八一九號	水船 (三百噸積)	吳海軍港務部	海軍兵學校	同	
第三八二〇號	同	同	海軍潛水學校	同	
第三八二一號	同	吳海軍工廠	同	同	
自第六十九號雷艇 至第八十號雷艇	內火艇 (魚雷艇型) (十二隻)	佐世保防備隊	臨時魚雷艇訓練所	同	魚雷艇(乙型) 裝備 スルモノト装
第四〇二號	カッター (九米)	相浦海兵團		同	
第九四九號	同	佐世保海軍港務部保管		同	
第一〇四七號	特種運貨船 (十四米)			同	
第一〇四八號	同			同	
第二五〇號	同			同	
第三九四號	同			同	
第三九五號	同			同	
第五〇九二號	同	佐世保防備隊		同	
第五〇九三號	同			同	
第五一一八號	同			同	
第五一一九號	同			同	
			鎮海海軍港務部 (旅順方面特別根據地隊 司令部供用)	同	

報國第一二三號 (揚子號)	內 (火艇 五米七)	上海海軍航空隊	臨時所屬	上海北蘇州路拾號 株式會社揚子公司 常務取締役 近藤芳三	船名	船種	所屬	定數別	寄贈者	官房軍第九八八號 株式會社揚子公司ヨリ寄贈ノ高速自動艇一隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム 昭和十九年八月十四日 海軍大臣 臣	第五一四四號	第五一四五號	第三〇〇〇號
											特型運貨船 (十四米)	同 (同)	橋船 (長十二米巾四米)

秘

海軍公報

第四七九四號

昭和十九年九月八日(金)

海軍大臣官房

○令 達

内令第一〇三六號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月五日

海軍大臣

軍艦、航空母艦雲龍型ノ項中「葛城」ノ下ニ「笠置、阿蘇、生駒」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第一〇三七號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月五日

海軍大臣

特務艇、魚雷艇第四百十一號型ノ項中「第四百十六號」ヲ、同第四百六十九號型ノ項中「第八百七號」「第八百二十五號」「第八百三十號」ヲ削ル

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令第一〇三八號

海軍施設部教導班規程中左ノ通改正ス

秘海軍公報 第四七九四號 昭和十九年九月八日

昭和十九年九月五日

海軍大臣

第一條中「軍港」ノ下ニ「並ニ鎮海及高雄要港」ヲ加フ

(内令提要卷一、二八ノ三頁参照)

内令第一〇三九號

特設艦船部隊令中左ノ通改正セラレ

昭和十九年九月五日

海軍大臣

第六十五條ノ二十五中「第一輸送隊、第二輸送隊」ヲ「第一特設輸送隊、第二特設輸送隊」ニ改ム

(内令提要卷一、六〇ノ五頁参照)

官房艦機密第二六號ノ三六

昭和十九年九月三日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

各潜水艦(伊號三百六十一型及波號ヲ除ク)兵器簿水雷長主管之部中左記ノ通改正ス

一一一三

指定	區分	品名	數稱	數量	摘要
追加	發射指揮要具之部	測的具一型	個	一	品名數目追加

○ 通 牒

官房軍機密第二一六九號

昭和十九年九月五日

海軍省 副官

關係各廳長殿

海軍經理學校分校呼稱ノ件通牒

海軍經理學校ハ東京都品川臺場ノ新校舍ニ移轉ニ付舊校舍ハ當分ノ間部内限リ海軍經理學校築地分校ト呼稱スルコトニ定メラレ候

○ 雜 款

軍極秘内令提要追録第六號(八月十五日現在)九月五日發送済

ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付アリタシ

(海軍省 副官)

○ 履歷記註ニ關スル件

本年内閣告示第一五號ニ依ル從軍加算付與ニ關シ第五三一海軍航空隊勤務員ニ對シテハ官房人第六一九號(十九、六、七海軍

公報部内限)參照ノ上左記ニ依リ履歷記註方現所轄ニ於テ取計ハレ度

年 月 日	記 事
自十八、七、一 至十八、九、十三	第五三一海軍航空隊ニテ 職務丁
自十八、九、十四 至十九、二、二十四	第五三一海軍航空隊千島列島ニテ 職務乙

(吳鎮守府艦船部隊殘務整理班長)

○ 開 隊

第二岡崎海軍航空隊ハ八月十五日愛知縣碧海郡上野村上野ニ開隊セリ

追テ同日附リ以テ岡崎海軍航空隊上郷派遣隊ハ解散セリ

省線岡崎驛下車驛前ヨリ市電ニテ大樹寺驛下車名鐵線ニ乗換
岩津驛下車西へ徒歩約四十分
(第二岡崎海軍航空隊)

海軍中尉藤田誠二八月十六日飛行訓練中遭難殉職八月十八日高雄海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ
海軍中尉鈴木 武八月二十五日飛行訓練中遭難殉職同二十六日筑波海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

秘

海軍公報

第四七九五號

昭和十九年九月九日(土)

海軍大臣官房

○令 達

内令第一〇四〇號(軍極秘公報(乙配付)ニ掲載)

内令第一〇四一號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年九月五日

海軍大臣

第一海防隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十一海防隊 第一號、第三號、第五號、第七號

(内令提要卷一、七二頁参照)

内令第一〇四二號

伊號第四百二潜水艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

昭和十九年九月五日

海軍大臣

内令第一〇四三號

第三百三號特設輸送艦

第三百五十號特設輸送艦

右吳鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

右佐世保鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル
昭和十九年九月五日

海軍大臣

内令第一〇四四號

第三百一號特設輸送艦

第三百二號特設輸送艦

第三百四號特設輸送艦

第三百五號特設輸送艦

第三百四十九號特設輸送艦

第三百五十一號特設輸送艦

第三百五十二號特設輸送艦

第三百五十三號特設輸送艦

第三百五十七號特設輸送艦

第三百五十八號特設輸送艦

右吳鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

第三百二十七號特設輸送艦

第三百二十九號特設輸送艦

第三百三十一號特設輸送艦

第三百三十二號特設輸送艦

秘海軍公報 第四七九五號 昭和十九年九月九日

二二五

1268

右佐世保鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

昭和十九年九月五日

海軍大臣

内令第一〇四五號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

第百六號輸送艦
第百七號輸送艦
第百八號輸送艦
第百十號輸送艦
第百五十四號輸送艦

第百一號輸送艦
第百二號輸送艦
第百四號輸送艦
第百五號輸送艦
第百四十九號輸送艦
第百五十一號輸送艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第百五十二號輸送艦
第百五十三號輸送艦
第百五十七號輸送艦
第百五十八號輸送艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和十九年九月五日

海軍大臣

第百二十七號輸送艦
第百二十九號輸送艦
第百三十一號輸送艦
第百三十二號輸送艦
第百三十三號輸送艦
第百三十四號輸送艦
第百三十五號輸送艦
第百三十六號輸送艦
第百三十七號輸送艦
第百三十八號輸送艦

内令第一〇四六號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

軍艦 笠置

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

軍艦 阿蘇

<p>軍艦生駒</p> <p>右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス 昭和十九年九月五日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第一〇四七號</p> <p>自第百五十九號特設輸送艦 至第百六十三號特設輸送艦</p> <p>右吳鎮守府所管ト假定シタル處之ヲ解ク 自第百三十九號特設輸送艦 至第百四十八號特設輸送艦</p> <p>右佐世保鎮守府所管ト假定シタル處之ヲ解ク 昭和十九年九月五日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第一〇四八號</p> <p>自第百一十一號輸送艦 至第百一十五號輸送艦</p> <p>自第百五十九號輸送艦 至第百六十一號輸送艦</p> <p>右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス 自第百三十九號輸送艦 至第百四十四號輸送艦</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス</p>
<p>昭和十九年九月五日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第一〇四九號</p> <p>昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年九月五日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第二魚雷艇隊ノ項中「13」ノ下ニ「14」ヲ、「28」ノ下ニ「29」ヲ加フ</p> <p>第二十二魚雷艇隊ノ項中「416」ヲ削ル</p> <p>第二十五魚雷艇隊ノ項中「494」ノ下ニ「495」ヲ加ヘ「802」ヲ削ル</p> <p>第二十七魚雷艇隊ノ項中「495」ヲ削リ「500」ノ下ニ「802」ヲ加フ</p> <p>(内令提要卷三、四八ノ二七頁參照)</p>	<p>内令第一〇五〇號</p> <p>第四百十六號魚雷艇 第四百七號魚雷艇 第四百二十五號魚雷艇 第四百三十號魚雷艇</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 昭和十九年九月五日</p> <p>海軍大臣</p>

秘海軍公報 第四七九五號 昭和十九年九月九日

二二七

1270

内令第一〇五一號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十九年九月五日

海軍大臣

船名	特設艦船種別	所管
汽船こがね丸	特設運送船(雜用船)	吳鎮守府

官房需第二二五號

昭和十八年官房需第二〇九號中左ノ通改正ス

昭和十九年九月七日

海軍大臣

別表第二中潜航時増加食ノ部口中清涼食ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

強力ビタミン食	一一三
---------	-----

(参照) 海軍會計法規類集二卷三二〇ノ一一ノ二頁

○通牒

醫第一〇九八號

昭和十九年九月七日

海軍省軍務局長
海軍省醫務局長

各鎮守府各警備府各艦隊參謀長
海軍練習聯合航空總隊參謀長
海軍上衛衛參謀長 殿

赤痢防疫ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ從來共各部ニ於テ極力實施中ナル處最近外地ノミナラズ内地ニ於テモ志賀型細菌性赤痢患者増加シ流行ノ徴アリ、此ノ際一設ト防疫ヲ強化スルノ要アリト認メラルルニ付現地ニ向ケ進出スル艦船部隊ノミナラズ現地ヨリノ歸還者及本病流行中ノ各部ヨリノ轉出入者ニ對シ嚴重ニ健康診斷ヲ勵行シ防疫上萬遺憾ナキヲ期スル様取計相成度

○雜款

○事務開始

那覇地方海軍人事部ハ九月一日左ニ開廳事務ヲ開始セリ

那覇市東町二丁目二番地

沖繩新報社跡(電話九七九番)

○正誤

八月二十六日秘海軍公報第四七八一號令達欄海軍戰時特例給與規則中改正第六表中「候補生」ノ下ニ「見習尉官」ヲ脱ス
八月二十八日官房教機密第三九一號艦船對空班科目中體育ノ項「驗育理論」ハ「體育理論」ノ、九月五日秘海軍公報第四七九一號令達欄達第二八八號中「海防艦十五隻」ハ「海防艦十六隻」ノ孰モ誤

○本日普通公報發行セズ



海軍公報 第四七九六號

昭和十九年九月十一日(月)
海軍大臣官房

○令 達

達第二九四號

特設輸送艦ヲ左ノ通命(改)名ス

昭和十九年九月五日

海軍大臣

命(改)名	建造所	記 事
第百一號輸送艦	大阪造船株式會社	舊第百一號特設輸送艦
第百二號輸送艦	同	舊第百二號特設輸送艦
第百四號輸送艦	同	舊第百四號特設輸送艦
第百五號輸送艦	同	舊第百五號特設輸送艦
第百六號輸送艦	同	陸軍ヨリ返還ノモノ (舊第一五〇六號艇)
第百七號輸送艦	同	(舊第一五〇七號艇)
第百八號輸送艦	同	(舊第一五〇八號艇)
第百十號輸送艦	同	(舊第一五〇九號艇)
第百十一號輸送艦	同	(舊第一五一〇號艇)
第百十二號輸送艦	同	(舊第一五一二號艇)
第百十三號輸送艦	同	(舊第一五一三號艇)
第百十四號輸送艦	同	(舊第一五一四號艇)
第百十五號輸送艦	同	(舊第一五一五號艇)
第百二十七號輸送艦	川南工業株式會社	舊第百二十七號特設輸送艦
第百二十九號輸送艦	浦崎造船所	舊第百二十九號特設輸送艦
第百三十一號輸送艦	同	舊第百三十一號特設輸送艦
第百三十二號輸送艦	同	舊第百三十二號特設輸送艦
第百三十三號輸送艦	佐世保海軍工廠	舊第百三十三號特設輸送艦
第百三十四號輸送艦	川南工業株式會社	舊第百三十四號特設輸送艦
第百三十五號輸送艦	同	舊第百三十五號特設輸送艦
第百三十六號輸送艦	同	舊第百三十六號特設輸送艦
第百三十七號輸送艦	同	舊第百三十七號特設輸送艦
第百三十八號輸送艦	同	舊第百三十八號特設輸送艦
第百三十九號輸送艦	同	舊第百三十九號特設輸送艦
第百四十號輸送艦	佐世保海軍工廠	舊第百四十號特設輸送艦
第百四十一號輸送艦	同	舊第百四十一號特設輸送艦
第百四十二號輸送艦	川南工業株式會社	舊第百四十二號特設輸送艦
第百四十三號輸送艦	浦崎造船所	舊第百四十三號特設輸送艦

秘海軍公報 第四七九六號

昭和十九年九月十一日

一一一九

1272

秘海軍公報 第四七九六號 昭和十九年九月十一日

第百四十四號輸送艦	川南工業株式會社	舊第百四十四號特設輸送艦
第百四十九號輸送艦	日立造船株式會社	舊第百四十九號特設輸送艦
第百五十一號輸送艦	向島造船所	舊第百五十一號特設輸送艦
第百五十二號輸送艦		舊第百五十二號特設輸送艦
第百五十三號輸送艦		舊第百五十三號特設輸送艦
第百五十四號輸送艦		舊第百五十四號特設輸送艦
第百五十七號輸送艦		舊第百五十七號特設輸送艦
第百五十八號輸送艦		舊第百五十八號特設輸送艦
第百五十九號輸送艦		舊第百五十九號特設輸送艦
第百六十號輸送艦		舊第百六十號特設輸送艦
第百六十一號輸送艦		舊第百六十一號特設輸送艦

達第二九五號
經營需品經理規程中左ノ通改正ス
昭和十九年九月八日
海軍大臣
別表第一號其ノ二及別表第二號主計長主管ノ部中「薪」ヲ「軍用薪」ニ改ム

達第二九六號
經營需品定額表及經營需品貸與品表中左ノ通改正ス
昭和十九年九月八日

經營需品定額表中			主計長主管		
區別	類別番號	品名	稱數	摘要	記事
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正
同	四	軍用燈籠甲	同	海老茶色布製 用但環共	從來ノ燈籠甲 摘要改正

一二三〇

同	同	同	改正	同	同	同	改正	同	改正	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四	四四五	四三八	四三七	四	四	四三二	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四二九
陸	陸軍服笠筒甲	陸軍用藥瓶棚	陸軍用書類棚	陸	陸	陸机	陸軍用教務机	陸机	陸軍用机	陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸戰椅子甲
乙	同	同	同	申	庚	己	同	戊	丙	丁	丙	乙	同	乙	同	同
上用	(臨時増員、特設部、除員ヲ除ク)	佐官以上用	事務室用	木製移動			練習生教室用		兵員事務、教授、倉庫用							
同	同	同	品名改正				番號摘要改正	從來ノ机已ヲ番號摘要改正	從來ノ机已ヲ番號摘要改正							從來ノ折椅子ニ改メ本品名ニシテ
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
九九一	九九〇	九八九	九八八	九	九	九八七	九八三	九	九八一	八	八	八	八	八	四	四四六
陸	陸	軍用辨當函	兵食	同	同	兵食	兵食	同	陸軍用配食器	陸	陸	陸	陸	陸	陸	軍用二重
兵員長腰掛	兵員食卓	同	皿	小	中	大	大	小	大	同	同	同	同	同	同	甲
									増加食ヲ給スル兵員用							同
																三人室以上ニシテ室内狭隘ナル准士官以上居室用
同	同	同	同	同	同	同	同	品名改正摘要	同	同	同	同	同	品名改正		品名摘要改正

ハ轉勤スル者ニ改ム

附則

本令ハ昭和十九年九月一日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集一二四頁

官房人機密第一七〇八號

横須賀鎮守府司令長官ハ左ノ各號ニ依リ測量術又ハ氣象術豫備練習生ヲ採用スベシ

昭和十九年九月八日

海軍大臣

一 採用範圍

水路部修技所專科又ハ海軍氣象部專科卒業者(本年九月中旬同所卒業者ヲ含ム)

二 出願期限

昭和十九年九月十五日

三 身體檢査及口頭試問ノ時期及場所

(イ) 時期

昭和十九年九月中旬

(ロ) 場所

横須賀鎮守府司令長官ノ定ムル所ニ依ル

四 採用時期及採用員數

特修別	時	期	員
測量術	九	月	中
氣象術	同	同	同
			約一五〇名
			約二一〇名

五 入團時期及場所

特修別	時	期	場
測量術	十	月	上
氣象術	同	同	同
			横須賀海兵團

官房機密第一三九三號

軍需品以外ノ對南方交流物資ノ取得及賣拂手續中左ノ通改正ス

昭和十九年九月八日

海軍大臣

第八條中「第一、一、(一)及(二)」ヲ削ル

第九條中「第一、一、(二)及(三)」ヲ削リ「船乘渡」ノ下ニ「又ハ倉庫渡」ヲ加ヘ「地方海軍運輸部長」ヲ「海軍運輸部長又ハ同支部長」ニ改ム

第十條表中「海軍運輸部長」ヲ「海軍運輸本部長」ニ、「稅關」ヲ「海運局」ニ改ム

第十一條中「地方海軍運輸部長」ヲ「海軍運輸部長又ハ同支部長」ニ、「稅關官吏」ヲ「海運局官吏」ニ改ム

第十二條中「海軍運輸部長」ヲ「海軍運輸本部長」ニ改ム

第十三條中「輸送中」ヲ「現品ノ受授以後現地又ハ輸送中ニ於テ」ニ、「輸送船船長」ヲ「契約擔任官又ハ輸送船船長」ニ改ム

第十四條中「稅關」ヲ「海運局」ニ改ム

第十八條中「地方海軍運輸部長」ヲ「海軍運輸部長又ハ同支部長」ニ改ム

長」ニ、「税關官吏」ヲ「海運局官吏」ニ、「税關」ヲ「海運局」ニ改ム

第十九條表中「現地地方海軍運輸部長」ヲ「現地海軍運輸部長」又ハ同支部長」ニ、「税關」ヲ「海運局」ニ改ム

第二十一條中「輸送船ヨリ引渡ヲ受クルモノトス」ヲ「輸送船又ハ倉庫ニ於テ現品ノ受授ヲ行フモノトス」ニ、「現地地方海軍運輸部長」ヲ「現地海軍運輸部長又ハ同支部長」ニ改ム

第二十四條中「税關」ヲ「海運局」ニ改ム

第二十六條表中報告（通報）先ノ欄中「海軍運輸部」ヲ「海軍運輸本部」ニ改ム

（参照）海軍機密會計法規類集四〇頁

官房第一〇九六號

元南洋殖産株式會社所有船鶴見丸ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年九月九日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數別	記	事
------	----	----	-----	---	---

第一六五九號	交通船兼曳船(十三噸)	海軍經理學	臨時附屬	元南洋殖産株式會社所有船鶴見丸	
--------	-------------	-------	------	-----------------	--

官房第一〇九七號

元北樺太鑛業株式會社所有船海英丸ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船種、船名、所屬等ヲ左ノ通定ム

種、船名、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年九月九日

海軍大臣

船種	船名	所屬	定數別	記	事
----	----	----	-----	---	---

交通船兼觀測船	第六天海	水路部	臨時附屬	元北樺太鑛業株式會社所有船海英丸	
---------	------	-----	------	------------------	--

官房第一〇九八號

橫須賀海軍工廠保管ノ内火艇二隻及運貨船一隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年九月九日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數別	記	事
------	----	----	-----	---	---

第一六〇號	内火艇(十一米)	同	臨時附屬	元軍總夕張搭載内火艇(M二九)	
第二六一號	同	同	同	元軍總足柄搭載内火艇(M三四)	
第七九五號	運貨船(八噸積)	同	同		

○通牒

兵備一機密一七四四號

昭和十九年九月四日

關係各廳長殿

海軍省兵備局長

秘海軍公報 第四七九六號 昭和十九年九月十一日

一三五

部外機械工場ノ動員ニ關スル件照會

首題ニ關シ別紙ノ通來照有之候條可然取計相成度

(別紙)

一九機密第二六六八號

昭和十九年九月一日

軍需次官

海軍次官殿

機械工場ノ動員ニ關スル件依頼

兵器等ノ緊急増産ノ爲行フ機械工場工作力ノ計畫的動員(既ニ工作機械工場ニ於テ實施中)ニ關シ各官廳ニ於テ各個ニ工場ニ對シ直接發注其ノ他ノ處置ヲ講ズル場合ハ生産ヲ阻害シ却ツテ所期ノ效果ヲ期シ得ザルヲ以テ動員工場ノ決定及利用ニ關シテハ直接發注等ノ措置ヲ講ズルコトナク夫々ノ方針ニ基キ機械局長又ハ機械局ヨリ指示シタルトキハ地方軍需監理部ト十分打合ノ上取進メラレ度尙貴廳關係官衙ニ對シテモ右趣旨ノ周知方固然措置相成度

教育機密第三一四號

昭和十九年九月九日

海軍省教育局長
海軍省經理局長

關係各所轄長殿

海軍主計見習尉官ニ對スル實務練習ニ關スル件申進

九月一日附各部ニ配員セラレタル海軍主計見習尉官ニ對スル實務練習ハ情況ノ許ス限り海軍主計少尉候補生實務練習規則ニ依ル第二期實務練習ニ準ジ實施方取計相成度

追テ同規則第十三條及第十七條ノ規定ニ依ル考査、實務練習報告及成績通知等ハ省略シ差支無之候

經豫機密第三號ノ六二

昭和十九年九月八日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

軍需品以外ノ對南方交流物資ノ取得及賣拂

手續中改正ニ關スル件通牒

今般官房經機密第一三九三號ニ依リ軍需品以外ノ對南方交流物資ノ取得及賣拂手續中ノ一部改正セラレ現地ニ於テハ交流物資ノ買上又ハ賣拂ハ船乘渡ニ依ルノ外倉庫渡ニモ依リ得ルコトニ規定セラレタル處之方取扱ハ左記ニ依ル義ト了知相成度

追テ本改正ハ軍ノ指示ニ係ル交流物資ニシテ船舶輸送事情、軍政又ハ作戦上ノ要求等納入人又ハ買受人ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ滞貨ト爲リタル場合生ズベキ不測ノ損害ヲ軍ノ負擔ト爲シ得ルコトトシ業者ヲシテ軍ノ要望ニ對應シ此等ノ損害ヲ顧慮スルコトナク活潑ニ開發蒐荷等ニ當ラシメントスル趣旨ニ基クモノニ有之爲念

記

一 交流物資ノ倉庫渡ニ依ル買上又ハ賣拂ハ輸送事情等業者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ依リ滞貨ト爲ルベキ場合ニ限ルモノトス

二 取得ノ場合ニ於ケル倉庫渡物資ノ受授以後ノ保管料其ノ他諸掛ハ臨時軍事費(款、項)、物資特別購入諸費支辨トシ買上價格ニ之ヲ算入セザルモノトス

三 到着ノ場合ニ於ケル倉庫渡物資ノ受授迄ノ保管料其ノ他諸掛ハ臨時軍事費(款、項)、物資特別購入諸費支辨トシ賣拂價格ニ之ヲ算入スルモノトス

四 倉庫渡物資ハ納入人又ハ買受人ニ之ガ保管ヲ委託スルコトヲ得但シ之ニ要スル經費ニ付テハ前二號ニ準ズ

○雜 款

○閉團
安浦海兵團ハ九月一日廣島縣賀花那安浦町ニ閉團セリ
旅行順路
吳線三津内海驛(十月一日ヨリ安浦驛ト改稱)下車徒歩ニテ約五分

○閉廳
第三百三海軍工作部セブ分工場ハ八月二十五日閉廳作業ヲ開始セリ

○事務開始

第三百二十六設營隊ハ八月十五日佐世保海軍工廠内ニ於テ事務ヲ開始セリ
波號第百一、同第百二潜水艦艇裝具事務所ヲ九月一日神戸川崎造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○旅行順路

近時燃料逼迫ノ折柄來廠ノ節東京急行鶴間驛又ハ大和驛ヘノ乗用車差遣ハ取止メノコトト致度自今海老名驛(東京急行小田原線)又ハ大和驛(東京急行江ノ島線)乗替神中線相模大塚驛下車ノ事ニ致サレ度
追テ相模大塚驛ヨリ當廠迄ハ徒歩約五分
(高座海軍工廠)

○殘務整理

佐世保鎮守府第百二特別陸戰隊ハ八月二十日解隊殘務整理ハ吳鎮守府第百一特別陸戰隊ニ於テ之ヲ行フ

○削除

八月三十一日附秘海軍公報雜款欄一一八二頁下段旅行順路(高座海軍工廠)ハ削除ス

○正誤

九月五日附秘海軍公報令達欄内令第一〇一一號本文中「受ケシメル」ハ「受ケシメラル」ノ誤